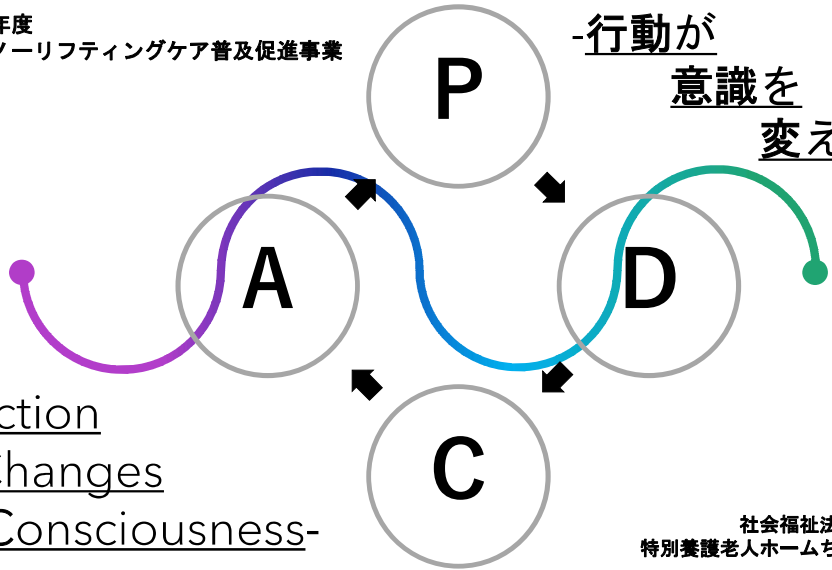


-行動が  
意識を  
変える-

-Action  
Changes  
Consciousness-



新規モデル施設として  
ノーリフティングケアの**取組む前**の施設の状況  
0 (ゼロ)

ノーリフティングケアの存在は知っていたが、  
1人で施設に普及させることに限界を感じていた。



人手不足、腰痛予防対策、介護の  
質向上、感染症拡大・防災発生時  
等の人員不足...  
課題山積...

新規モデル施設として  
ノーリフティングケアの**取組む前**の施設の状況  
0 (ゼロ)

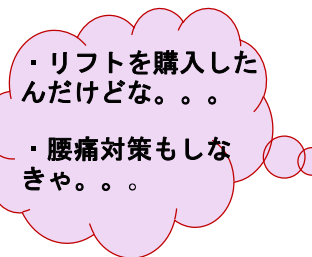
施設に走行式リフトやスライディングボード等の福祉用具  
はあったが、風景の中に溶け込みインテリア化されていた。



- ・本来の用途と異なる扱い方をされていた福祉用具
- ・身体への負担が大きい介助方法
- ・右肩上がりの皮下血件数

新規モデル施設として  
ノーリフティングケアの**取組む前**の施設の状況  
BEFORE

管理側と現場の職員。双方、働きやすい環境でありたいという思いは同じ。現状を変えるという壁が常に阻害する。



現場の声

- ・抱えた方が早いし。
- ・腰痛は当たり前。

新規モデル施設として  
ノーリフティングケアの取組む前の施設の状況

START

令和2年度より福岡県ノーリフティングケア普及促進事業  
マネジメント研修が始まっているのを知り、募集開始を心  
待ちに。

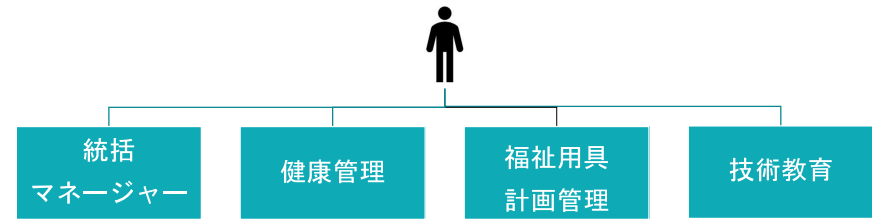
現状から



いざ出発！

未来へ！

～1人で始めるノーリフティングケア①～



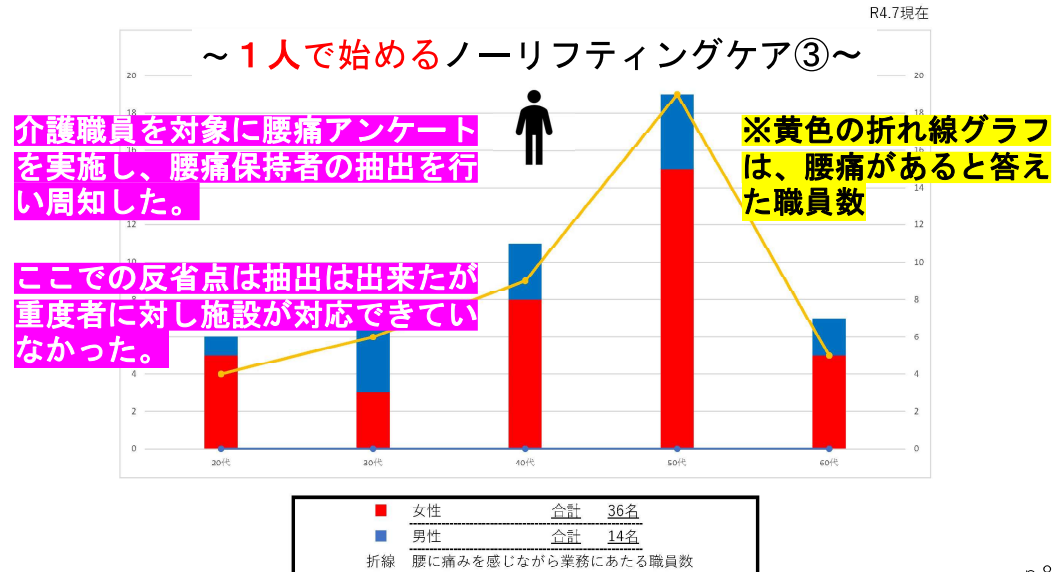
変化への抵抗は承知していたが、職員さんの「理解・協力」  
は後から必ずついてくる。・委員会の設立にあたり、統括マ  
ネージャー・職員の健康管理・福祉用具計画管理個別プラン  
ニング・技術教育の管理全てを1人で担った。

～1人で始めるノーリフティングケア②～

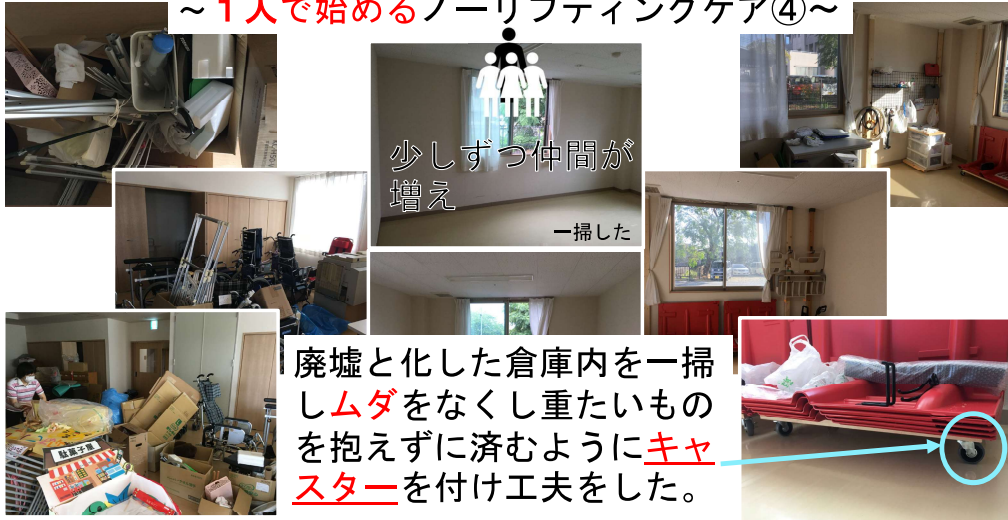
ノーリフティングケアの目的と理解の共有を図るため全職員を対象とした勉強会の開催を実施し、さらなる知識や技術といった理解を深めるため、各ユニットから委員を選任し毎月1度委員会の開催を開始した。

全職員 → 委員の選任 → 委員会

～1人で始めるノーリフティングケア③～

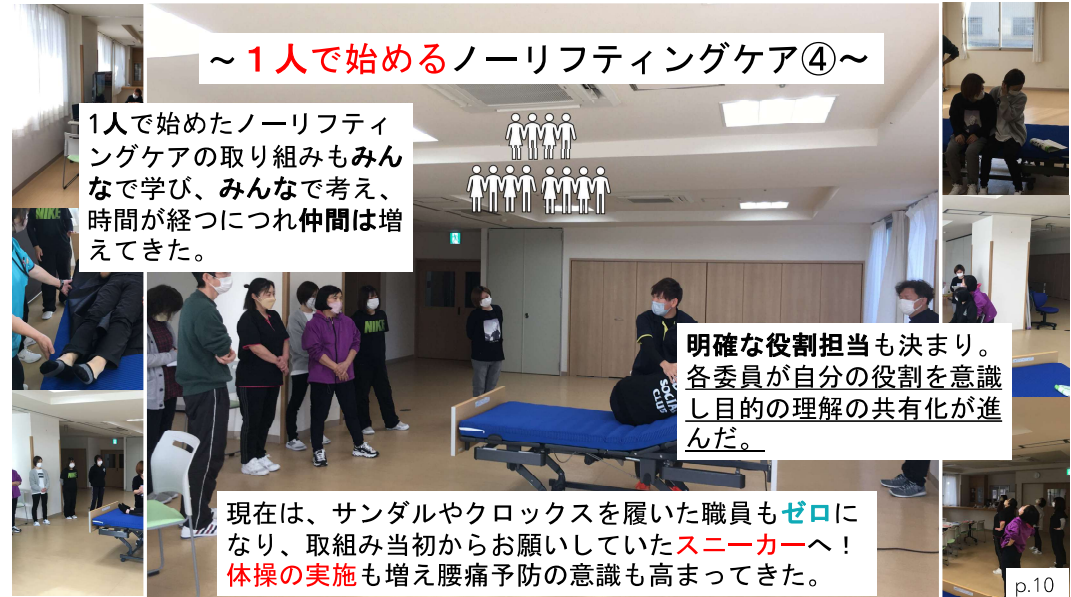


～1人で始めるノーリフティングケア④～



p.9

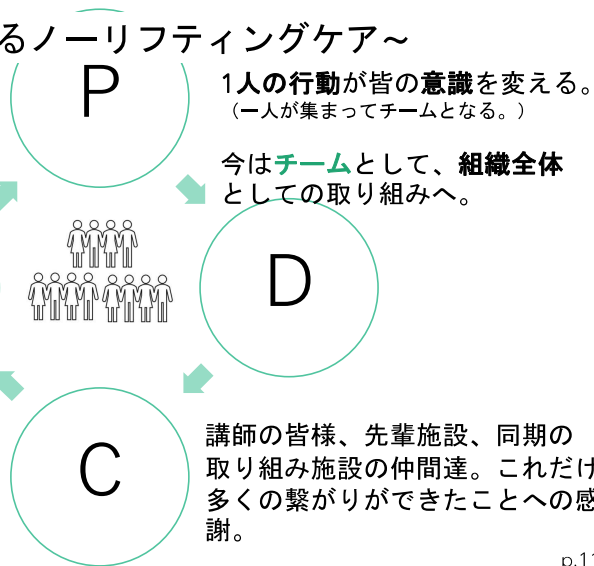
～1人で始めるノーリフティングケア④～



p.10

～チームで始まるノーリフティングケア～

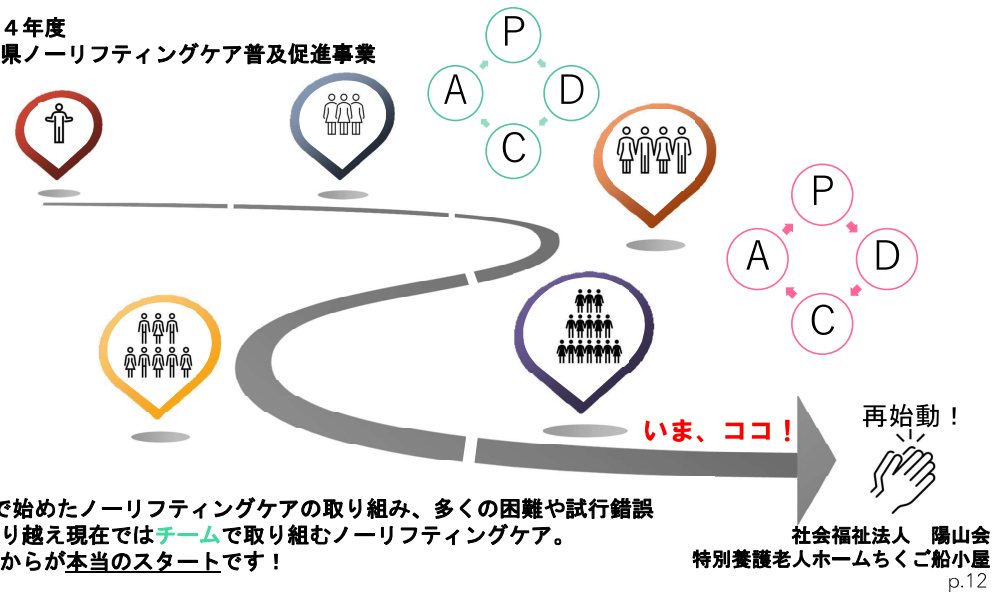
現在、アセスメントプランニングやリスクマネジメントなどP→D→C→Aサイクルが行える土壌が整った。



職員の腰痛予防対策やご入居者へ安全・安心・安楽な質の高い介護の提供を目的としたこの取り組みは今後必ず広げなければならない。

p.11

令和4年度  
福岡県ノーリフティングケア普及促進事業



p.12